

2008年6月期

# 決算説明会

---

株式会社アイ・オー・データ機器

2008年8月21日

# 会社概要

- ◆設立 : 1976年1月10日
- ◆代表者 : 代表取締役社長 細野昭雄
- ◆所在地 : 石川県金沢市
- ◆資本金 : 35億8,807万円
- ◆年商(連結) : 629億円 (2008年6月期)
- ◆従業員数 : 604人 (2008年6月末現在)
- ◆事業所 : 東京・大阪・札幌・仙台・横浜・名古屋・広島・福岡
- ◆子会社 : 国際艾歐資訊股イ分有限公司(台湾)  
艾歐資訊横山(香港)有限公司  
艾欧北菱横山(上海)貿易有限公司  
I-O DATA America, Inc. ※2008年1月に技術調査拠点として設立。
- ◆関連会社 : I-O & YT Pte. Ltd. (シンガポール) ※2008年1月より持分法適用関連会社に移行。  
(2007年12月までは連結子会社)  
クリエイティブ・メディア株式会社  
I-O DATA DEVICE USA, INC. ※現在清算手続中。

石川県金沢市 本社



# 2008年6月期(P/L)<連結>

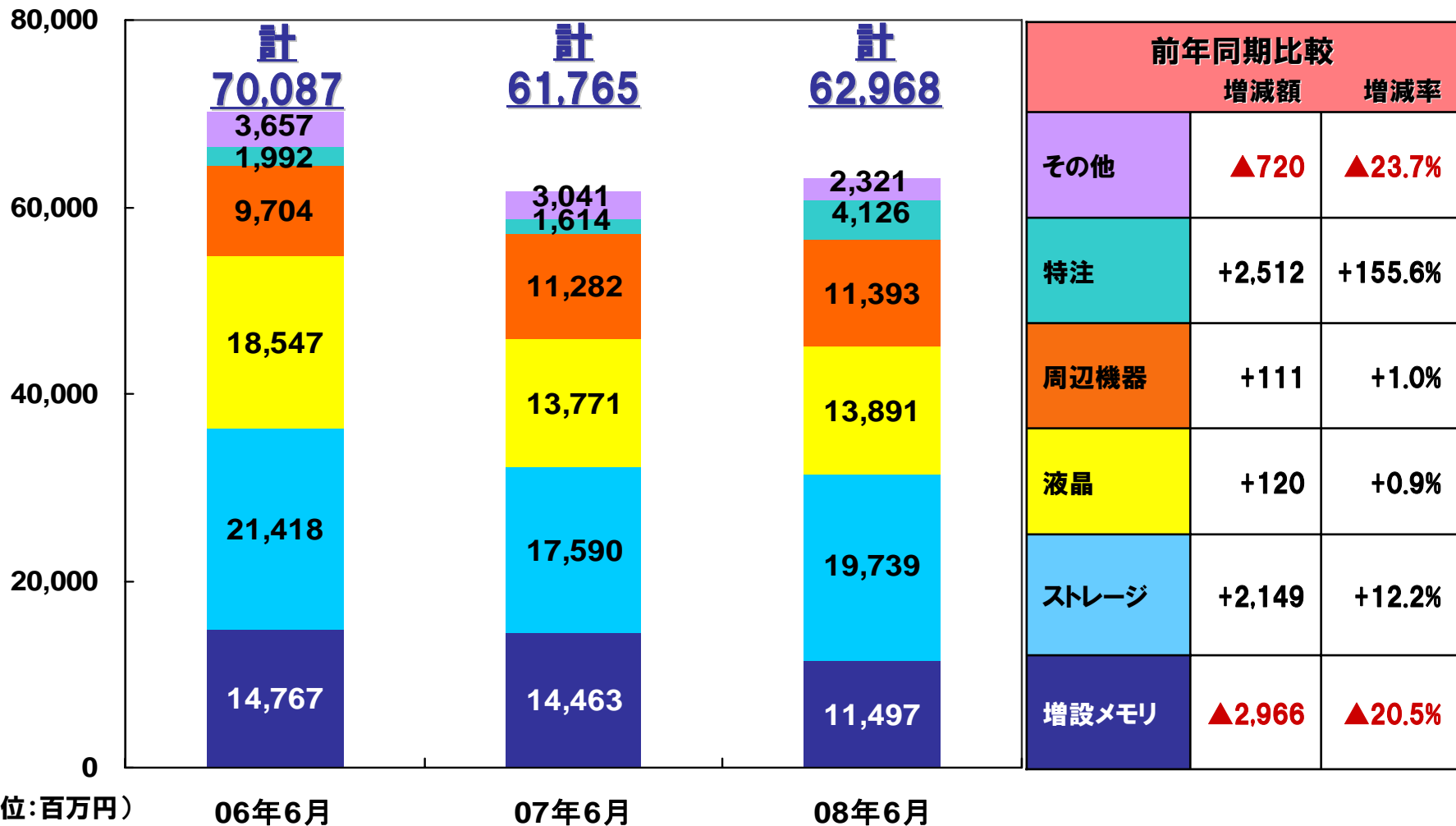
◆増収増益。そして全ての利益項目で黒字化。

(単位:百万円)

	2007年6月期 金額 (構成比)	2008年6月期 金額 (構成比)	前年同期比較 増減額 (増減率)	主な増減要因
売上高	61,765	62,968	+1,203 (101.9%)	・ストレージ需要の拡大と、デジタル家電関連需要の立ち上がりによる増加。
売上総利益	6,776 (11.0%)	9,592 (15.2%)	+2,815 (141.6%)	・採算管理強化と原価低減活動の効果に加え、中間期前後の円高進行による調達価格の低減が貢献。
販売費及び一般管理費	6,821 (11.0%)	7,499 (11.9%)	+677 (109.9%)	・業績回復と次期の先行投資に係る人件費ならびに研究開発費、広告宣伝費にて増加。
営業利益 (▲損失)	▲44 (▲0.0%)	2,093 (3.3%)	+2,137 -	
営業外収益	512	205	▲306	・前期に発生した為替差益(349)が今期は為替差損(291)に転じた事による減少。
営業外費用	356	481	+125	・前期に発生した持分法による投資損失は減少(▲160)するものの、今期は為替差損により増加。
経常利益 (▲損失)	111 (0.2%)	1,816 (2.9%)	+1,705 (1,636%)	
特別利益	156	16	▲140	
特別損失	260	423	+163	・前期に発生した投資有価証券評価損は減少(▲173)するものの、今期は製品不具合対策費(400)により増加。
当期純利益 (▲損失)	▲657 (▲1.0%)	1,166 (1.9%)	+1,823 -	

# 部門別売上高(連結)

◆大容量ハードディスクを中心に「ストレージ」部門が伸張するとともに、デジタル家電関連需要に対応した新製品投入が進んだ「特注」「周辺機器」部門が成長を牽引。一方で単価下落の影響により「メモリ」部門が減少。



# 2008年6月期(B/S)<連結>

(単位:百万円)

	2007年 6月期	2008年 6月期	前年同期 比較	主な増減要因
<b>(資産の部)</b>				
<b>流動資産</b>	<b>28,291</b>	<b>25,719</b>	<b>▲ 2,572</b>	
現金及び預金	6,477	5,605	▲ 872	・期末にかけての売上減少の影響 ・デリバティブ債権の減少(▲1,998)
受取手形及び売掛金	12,633	11,366	▲ 1,267	
たな卸資産	6,478	8,079	1,600	
その他の流動資産	2,700	668	▲ 2,032	
<b>固定資産</b>	<b>6,618</b>	<b>6,718</b>	<b>99</b>	
<b>資産合計</b>	<b>34,910</b>	<b>32,437</b>	<b>▲ 2,473</b>	
<b>(負債の部)</b>				
<b>流動負債</b>	<b>13,266</b>	<b>12,040</b>	<b>▲ 1,226</b>	
支払手形及び買掛金	10,351	9,523	▲ 828	・前期末休日による影響(▲902)
短期借入金	741	-	▲ 741	
未払法人税等	108	286	178	
その他の流動負債	2,063	2,230	167	
<b>固定負債</b>	<b>906</b>	<b>747</b>	<b>▲ 159</b>	
<b>負債合計</b>	<b>14,172</b>	<b>12,787</b>	<b>▲ 1,385</b>	
<b>(純資産の部)</b>				
株主資本合計	18,965	19,457	492	・利益剰余金の増加(1,019)、自己株式の取得(▲526)による影響
評価・換算差額等合計	1,500	▲ 13	▲ 1,514	・デリバティブ債権の減少に連動した繰延ヘッジ損益の減少(▲1,300)
少数株主持分	272	206	▲ 65	
<b>純資産合計</b>	<b>20,738</b>	<b>19,650</b>	<b>▲ 1,087</b>	
<b>負債純資産合計</b>	<b>34,910</b>	<b>32,437</b>	<b>▲ 2,473</b>	

# 主な経営指標推移(連結ベース)

	2006年6月期	2007年6月期	2008年6月期
売上高経常利益率(%)	<b>△0.5</b>	<b>0.2</b>	<b>2.9</b>
自己資本比率(%)	<b>59.8</b>	<b>58.6</b>	<b>59.9</b>
総資本利益率(ROA)	<b>△1.6</b>	<b>△1.9</b>	<b>3.6</b>
株主資本利益率(ROE)	<b>△2.7</b>	<b>△3.2</b>	<b>6.0</b>
1株当たり当期純利益(円)	<b>△37.39</b>	<b>△44.73</b>	<b>81.05</b>
1株当たり配当額(円)	<b>10.00</b>	<b>10.00</b>	<b>15.00</b>
配当性向(%) (配当額/当期純利益)	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>18.5</b>

# 部門別の概況

---

# 増設メモリボード部門



メモリ部門で  
BCN AWARD 2008  
最優秀賞受賞。

## メモリ



⇒ 新OSの普及により増設需要が高まり、販売数量は10%近く増加するものの、07年前半からのDRAM価格動向に連動した販売単価の下落分をカバーできず、売上高は減少。

## メモリカード



⇒ 前期microSDの急速な普及に合せ拡大するものの今期は競争激化により、数量・売上ともに減少。

## USBメモリ



⇒ 数量は増加したものの、価格競争の激化と、夏場の一時的な部材調達難が響き、売上高は減少。



# ストレージ部門



BCN AWARD 2008  
最優秀賞受賞。



DVDドライブでメーカー別  
数量シェアNo.1。  
(GfK Japan調べ)

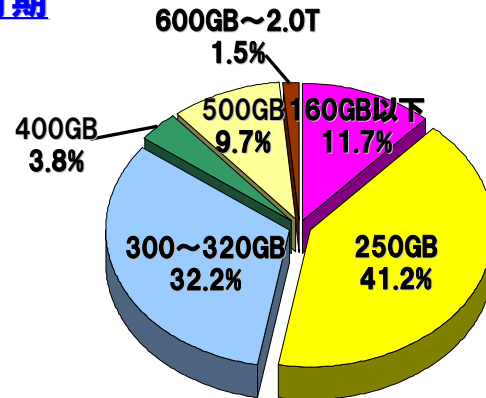
## HDD



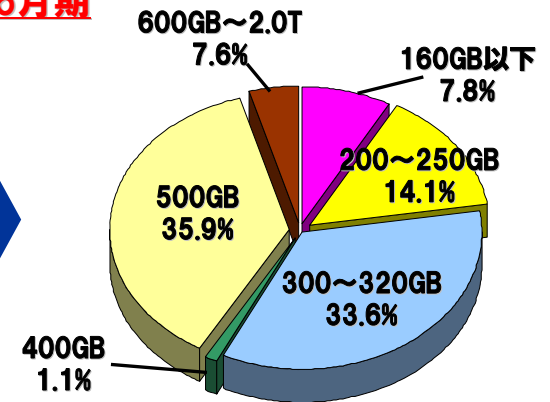
⇒ 外付HDDを中心に需要が高まるとともに、大容量化の伸展により販売単価の下落に歯止めがかかり、数量・売上ともに、前期より大幅に伸長。

<3.5インチ内蔵・外付HDD製品 容量別数量シェア>

07年6月期



08年6月期



## DVD・MO CD-R/RW



⇒ DVDは、Blu-ray Discへの世代移行が始まったことにより需要が回復し、売上・数量ともに増加。MO・CD-R/RW製品は、マーケットの縮小に連動。

# 液晶部門

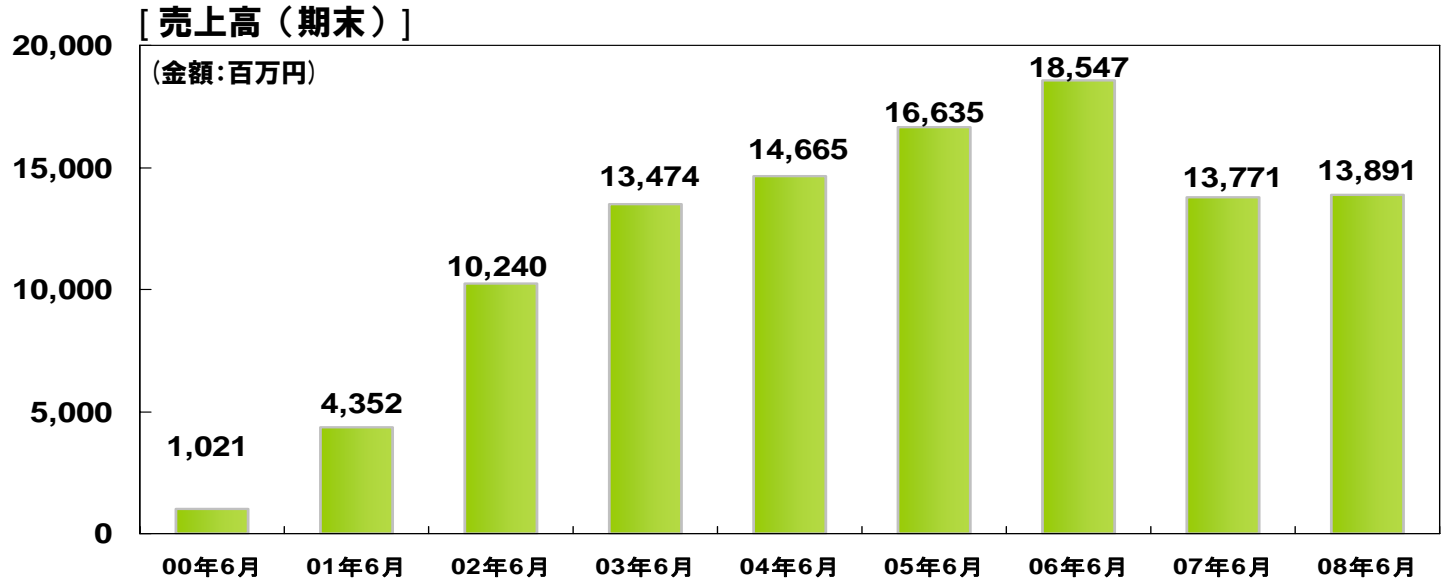


パソコン用ディスプレイで  
メーカー別 数量シェアNo.1。  
(GfK Japan調べ)

## 液晶ディスプレイ

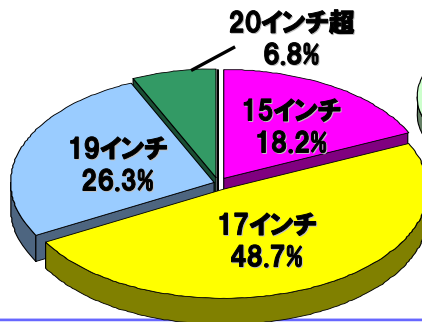


一般向けの増設需要が減少する中、ワイド型の製品ラインナップの充実を図り、積極展開し、売上・数量ともにほぼ前期並を維持。

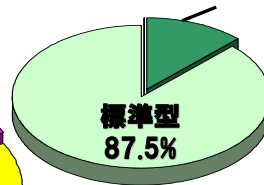


### < サイズ・型別台数シェア >

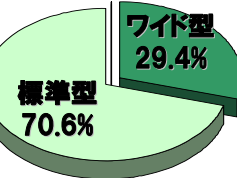
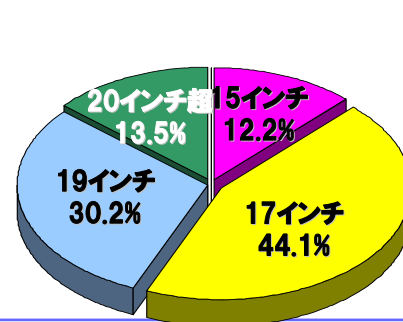
#### 07年6月期



#### ワイド型 12.5%



#### 08年6月期



# 周辺機器部門



BCN AWARD 2008  
最優秀賞受賞。

映像関連部門 モデム部門

## マルチメディア



ワンセグチューナーが前期好調に推移したことに加え、PC増設用地上デジタル放送チューナーの発売開始により、売上・数量ともに増加。

## ネットワーク・通信



ネットワークを経由したデータの共有ニーズの高まりを背景に、成長分野と目し注力しているNAS製品が牽引し、売上・数量ともに増加。

## AVeL製品



一般向け次世代商品開発の端境期にあたり、売上・数量ともに大きく減少。

# 2009年6月期の業績見通し

---

# 2009年6月期(P/L)予想<連結>

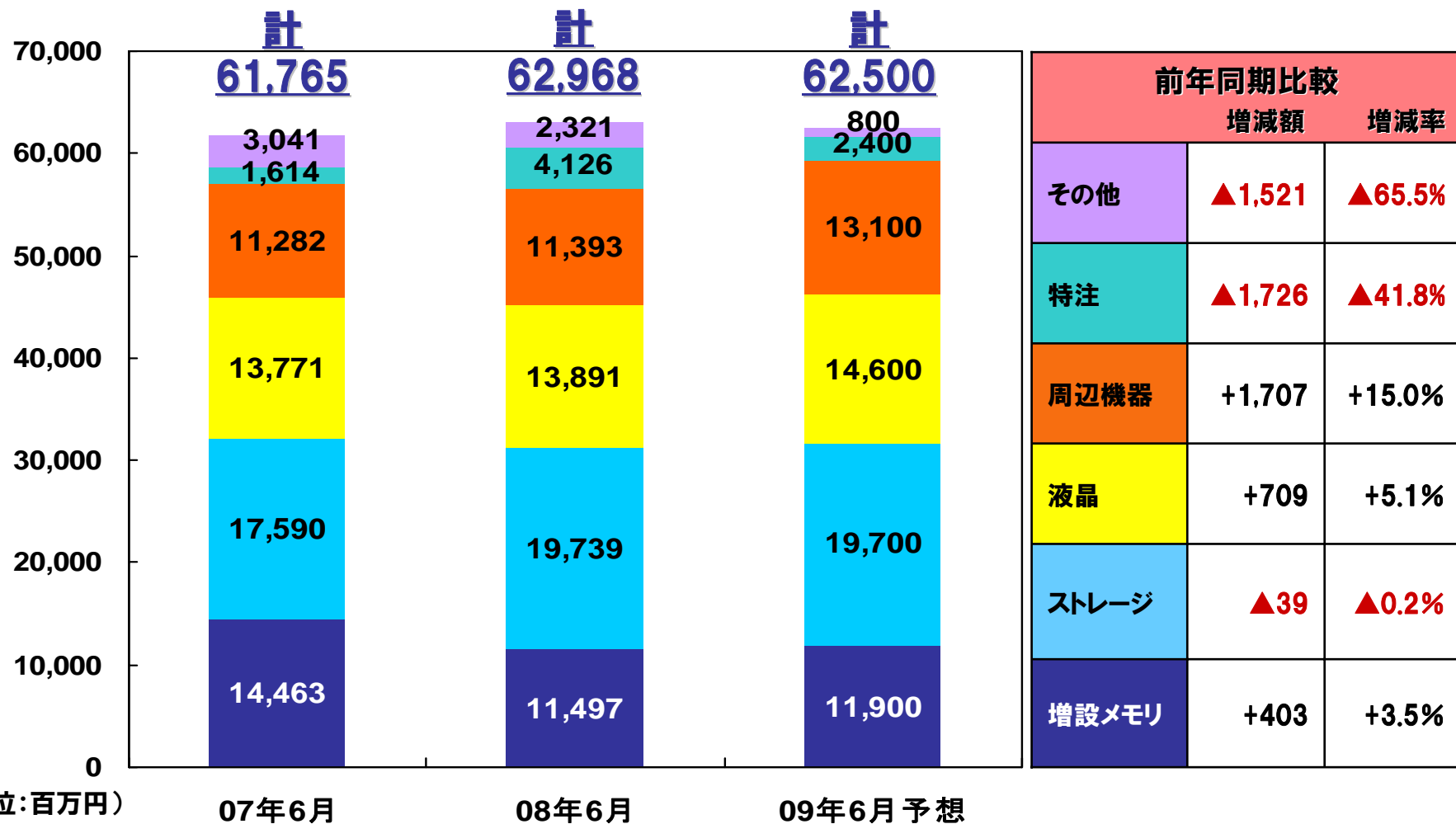
(単位:百万円)

	2008年6月期 金額 (構成比)	2009年6月期 金額 (構成比)	前年同期比較 増減額 (増減率)	主な増減要因
売上高	62,968	62,500	▲468 (▲0.7%)	・前期に引き続きデジタル家電関連製品等の成長を見込むものの、前期比ほぼ横ばいを予想。
売上総利益	9,592 (15.2%)	8,400 (13.4%)	▲1,192 (▲12.4%)	・デジタル家電関連製品にて売上に連動し成長を予想するものの、前期採算性を大幅に回復したPC周辺機器製品の、需要低迷下における価格競争の激化見込み、減益を予想。
販売費及び一般管理費	7,499 (11.9%)	7,450 (11.9%)	▲49 (▲0.6%)	・研究開発費等、新規事業の確立に係る費用を増加させつつ、一般管理費用を抑制予定。
営業利益 (▲損失)	2,093 (3.3%)	950 (1.5%)	▲1,143 (▲54.6%)	
経常利益	1,816 (2.9%)	1,040 (1.7%)	▲776 (▲42.7%)	・営業外収益、営業外費用については、定常発生日目のみ予想。
当期純利益 (▲損失)	1,166 (1.9%)	640 (1.0%)	▲526 (▲45.1%)	・法人税、住民税および事業税については、通常税率にて予想。

※為替レートの想定につきましては、1ドル109円としております。

# 部門別売上高 予想(連結)

◆デジタル家電関連需要の拡大に対応し、「周辺機器」部門の成長を見込む一方、IO&YT Pte.ltdが持分法適用関連会社となった影響から、海外の部品販売を中心とする「その他」及び、取引の特性を考慮し「特注」部門について、前期比減少を予想。



# 2009年6月期の展開

---

# 弊社の今後の事業戦略

## 既存市場の深耕

### ① 拡大するデジタル家電周辺機器

#### 市場への対応

- 地デジ関連分野
- STB・VOD分野

⇒業績のベースとなる事業を強化

## 新事業構築へのチャレンジ

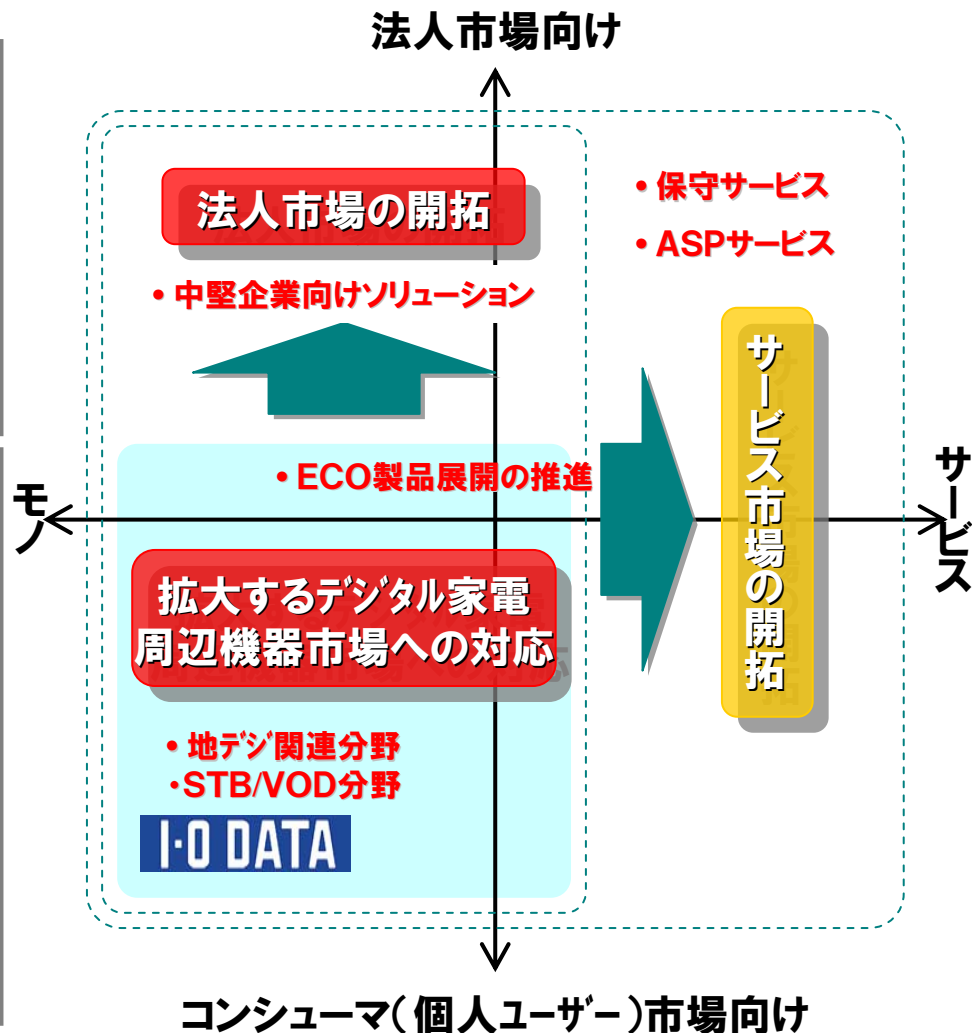
### ② 法人市場の開拓

- 中小規模事業者向けソリューション  
(バックアップ・セキュリティ分野)
- ECO製品展開の推進

### ③ サービス市場の開拓

- 保守サービス
- Web関連ビジネス (ASPサービス)

⇒新たな成長基盤を構築



回復基調にある業績の足元を確実に固めつつ、  
今後の成長の基盤となる新分野への挑戦を推し進めてまいります。



# ① 拡大するデジタル家電周辺機器市場への対応

～デジタル家電周辺機器市場の方向性～

## PC周辺機器分野

## デジタル家電分野



家電のデジタル化により、PC周辺機器が家電の周辺機器として使えるように！

“周辺機器事業で培ったノウハウや技術”“3rdパーティの強み”を生かした製品・トータルソリューションで、デジタル家電周辺機器市場にチャレンジいたします。

# ① 拡大するデジタル家電周辺機器市場への対応 ～地デジ関連分野～

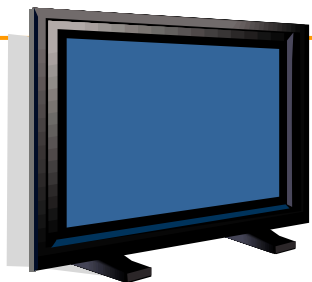
約7,800万台におよぶ  
“アナログTV”の存在

(’07終了時点 JEITA予測)

- アナログTVを活用するための“より安価な”地上デジタル対応機器ニーズの拡大
- デジタル対応TVへの買換え需要拡大

PC周辺機器分野に対する  
地デジ関連の環境変化

- PC用フルセグ地デジチューナー発売解禁
- ダビング10ルール運用開始  
⇒録画・保存ニーズ拡大



地デジへの移行に伴い、TVの買換え需要だけではなく  
PCやデジタルTV周辺機器においても新たな市場が発生。

# ① 拡大するデジタル家電周辺機器市場への対応

## ～地デジ関連分野～

PCで楽しむ

TVで楽しむ

観る & 録る

観る

ためる/残す

観る

↓  
お手持ちのPCで  
地デジ視聴 & 録画に

↓  
地デジチューナー内蔵型液晶で  
PC作業しながら地デジ視聴

↓  
TVに直接接続で録りためる  
/ 録画した番組を保存する

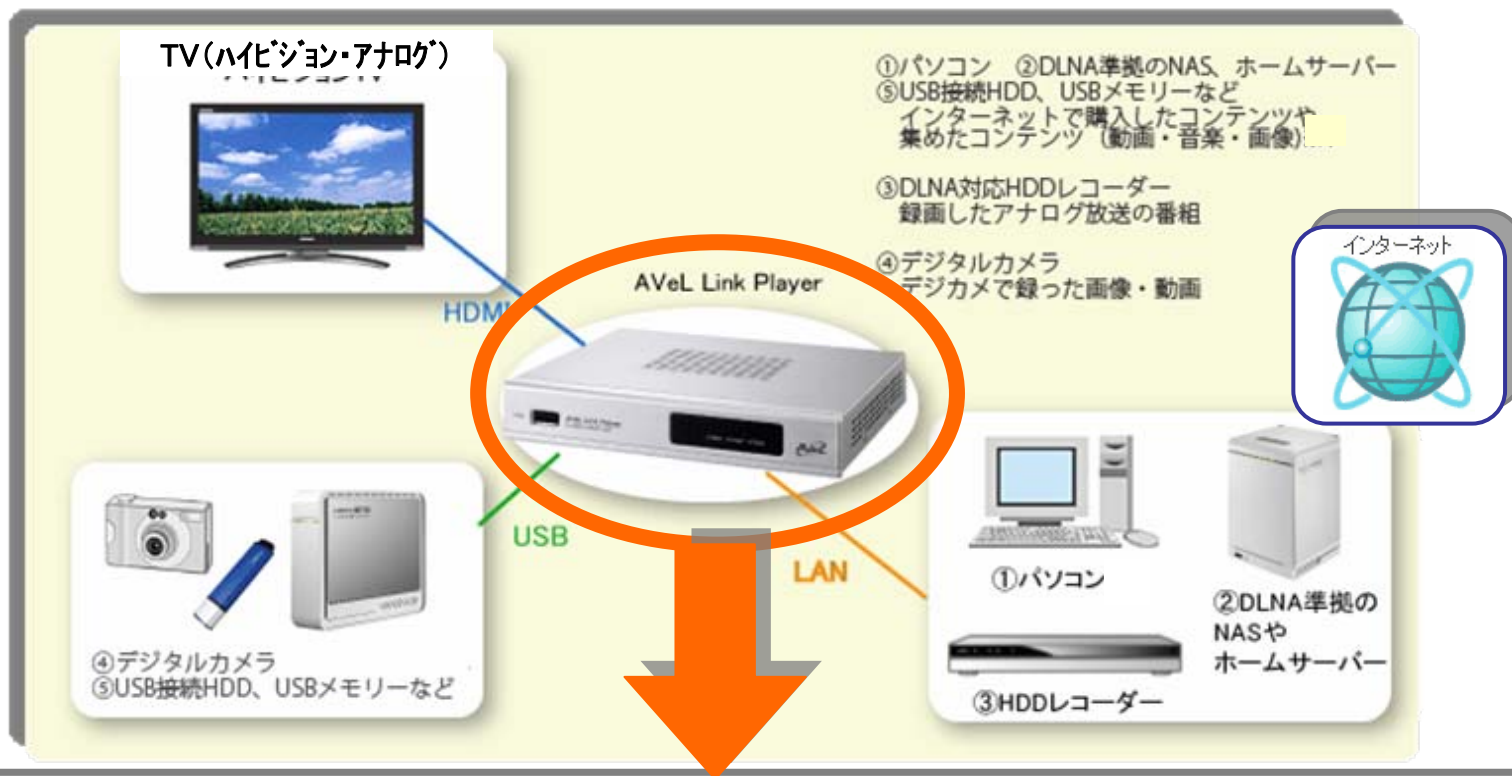
↓  
低コストでアナログTVで  
地デジ放送視聴可能に



「大手家電メーカーとの連携強化」「家電ライクな使い勝手の追求」  
によって地デジ関連分野における需要を獲得いたします。

# ① 拡大するデジタル家電周辺機器市場への対応

## ～STB・VOD分野～



デジカメ画像・動画・音楽データの増加を背景に、それらをTVで楽しむための“中継装置”として“STB端末”の可能性が拡大。

⇒複数VODサービスへのマルチ対応やデジタル機器(デジカメ・HDDレコーダー等)との接続・拡張性を高めることで、市場を拡大・獲得してまいります。

## ②法人市場の開拓

### ～ 中小規模事業者向けNAS/セキュリティ製品 ～

- 法規制による適切な情報管理要求の高まり（内部統制、法令遵守等）
- 増加し続ける文書・データによる保有データの増大（データ保存容量飢餓状態）
- 保有データが事業継続に与える影響度の上昇

何らかの対応が必要なことは理解されているが...

- 高性能だが、価格が高くて手が出ない
- IT管理者が不足しており、導入・維持管理が困難



HDL-GTR2U シリーズ  
(19インチラックマウント対応)



HDL-GTR シリーズ  
(大容量ネットワークHDD)



HDLM-Gwin シリーズ  
(ネットワークミラーリングディスク)



HDLM-G500NC  
(NonCopyサーバー)



EDS-AG  
(セキュリティUSBメモリ)

- 低価格で、従来のバックアップシステムやセキュリティシステムと同等機能を実現し、中小規模事業者・事業所をターゲットとした市場の獲得を目指します。

## ②法人市場の開拓

### ～ECO製品展開の推進～

#### 液晶ディスプレイ

毎日使うディスプレイから  
省エネを実現



#### ハードディスク

周辺機器の代名詞である  
ハードディスクもアイオーなら  
省エネを実現



#### DVDドライブ

ディスク回転数をコントロール  
することで省エネを実現



#### PLCアダプター

LANが配線しにくい場所で  
活躍するPLCもエコ仕様に



#### TVチューナー

地デジやワンセグもエコを意識  
したハードウェア設計を心がけ  
ています



#### メモリー

省電力化の難しいメモリー  
部品の見直してエコ仕様に



#### 統合節電ソフトウェア



インストールするだけで液晶やHDD  
の消費電力をかしこく削減！  
(無償ダウンロード対応)

※省電力モード利用時もしくは従来製品との  
比較における節電度合いを表示しております。

◆環境への意識の高まりとともに“より安全で環境にやさしい製品”へのニーズ拡大

⇒製品を快適にお使いいただきながら、「環境負荷低減」「ランニングコスト削減」を実現できる“ECO製品(省電力・有害物質フリー)”の展開を積極的に推進することで、環境への意識の高いお客様(法人・個人)のニーズにお応えしてまいります。

# ③ サービス市場の開拓

## ～ 保守サービス・ASPサービス ～

### アイオー・セーフティ・サービス

お客様が弊社製品を安心してご利用いただくための、有償保守サービスです

**Safety1** 安心の優先電話サービス

**Safety2** 安心の定額サービス



→ ISS・PROサービス

**オンサイト保守**

故障時、サービスマンがお客様のところへお伺いし、故障品の交換作業などを行います。

→ ISS・STDサービス

**デリバリー保守**

故障時、代品をお届けし、その場での故障品の同時引取りを行います。

→ ISS・SETサービス

**初回設置**

すぐに使えるようにしたい。  
面倒なセッティングは任せたい。  
そんなご要望にお答えします。

### アイオーWebパイロット

ASPサービスとしてはユニークな親指サイズのUSB接続型の認証キーによるセキュリティ機能を設け、Web運用を支援する3種類のサービスをご提供いたします

アイオー  
**WebPilot**  
アイオーウェブパイロット **エディタ**  
2月21日 販売開始!

**簡単ホームページ編集!**

ホームページ作成やWebサーバーの知識がない方でも、ホームページの編集・作成・管理がおこなえるサービスです。

アイオー  
**WebPilot**  
アイオーウェブパイロット **ブログ**  
3月6日 販売開始!

**ビジネスブログの決定版!**

お客様ご自身のサーバーやドメイン配下でブログを作成、運営できるサービスです。

アイオー  
**WebPilot**  
アイオーウェブパイロット **ムービー**  
3月6日 販売開始!

**簡単Web動画配信!**

お客様の運用サーバー上から簡単に動画配信が行えるサービスです。

従来からのハードウェア販売だけではなく、様々なサービス(保守サービス・ASPサービス)と組み合わせることで、新しいソリューションをご提供いたします。

**新事業構築(サービスビジネス)に積極的にチャレンジいたします。**

# 本資料お取り扱い上のご注意

1. 本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。
2. 本資料中の業績予想ならびに将来予測に関する記述は、当社が資料作成時点で入手可能な情報を基にした予想値あり、これらは経済情勢の変動や予測不可能な不確定要因の影響を受けます。従って、実際の業績は本資料中の予想に関する記述とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
3. 本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。





更なる成長を目指し、挑戦を続けてまいります。  
どうぞ、ご期待下さい。

<http://www.iodata.jp>